

グアムでの経験

昆野 遊利斗（中学2年）

グアムへ向かう飛行機の中でずっと考えていたことは「カウンターパートとうまくコミュニケーションがとれるだろうか」ということでした。いくら英会話の授業でネイティブの方の発音を聞き、スピーチをしていますが、ネイティブの人と意思疎通をするのは初めての経験だったからです。電話でも”Pardon?”や”Hello?”ばかりでまともな会話ができませんでした。また、スピードに慣れていなかったため、聞き返すことが多々ありました。

Free day ではタロフォフォの滝へ連れて行ってもらいました。カウンターパートの Andrew の親族と一緒にだったので、最初のうちは緊張のあまり、全く話せなかったですが、途中からは慣れてきてしっかり返答することが出来ました。三日目からは学校に行きました。最初は話しかける事が出来なかったのですが、午後にターザウォーターパークへ行った際、プールで鬼ごっこをしました。ここでの交流によって、次の日から話しかけやすくなりました。また、チャモロビレッジにも行きましたが、ここで一番印象に残っているのは、グアムの伝統的なダンスを披露したことです。下の写真はその後 Andrew の家族と撮ったものです。

Andrew の家では、専ら二人でバスケットボールのゲームをしていました。また、Andrew のお父さんとお母さんは毎日、「洗濯物は無いか」「困っている事はないか」と聞いてくれるなど、本当の息子の様にととても良くしてくれました。帰る直前、荷造りを手伝ってもらいましたが、その時、圧縮袋を見てとても驚いていました。空港で別れる時は、心残りがありましたが、またグアムに来ると約束して別れました。

このように、7日間で、ただ旅行に行くだけでは経験できないことを体験出来ました。また、目標であった「自分自身で買い物をする」ということも達成出来たうえ、ネイティブスピーカーのスピードにもある程度慣れることが出来ました。特にスピードに慣れたということは、学校の勉強はもちろん、次に海外に行く時にも役に立つと思います。しかし、話したい事があってもそれを英語にすることが出来ないということがたびたびあったので、次に行くまでにはもう少し語彙力を鍛えたいと思います。最後に、このような機会を作ってくれた KIRA の皆様、そして引率してくださった卯月さん、瀧川さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

